

学校評価報告書

江津東小学校

(平成18年度)

評価項目	領域	中間目標	短期目標	成果・取組指標	自己評価		資料番号	外部評価		改善策
					達成状況	評価		考察	評価	
① 教育課程・学習指導	教育課程	学校教育目標を旨とし、適切な教育課程を編成実施するよう努める。	全体計画・年間指導計画に沿って実施する。	単元評価シートを試行し、評価する。	評価シートの活用が十分でなかった。教員アンケート50%。短期目標と取組み指標との間にずれがあった。	C	職一1	学校目標から目ざす子ども像が考えてあり、それに沿った指導計画も立てられ、適切な教育課程が実施できている。単元評価シート使用は、不慣れの感がある。	B	指標の見直しを行う。実施状況を確認する指標にする。
			授業時数を確保する。	100%達成を目指す。	100%達成予定（3月末には標準時数を超える予定）	A	①-2	標準授業時数が確保できているのでこの状態を継続してほしい。		
	確かな学力	確かな学力の育成をめざす。	学力調査の結果分析に基づいた学力向上策を実践に移す。	授業評価シート実践をスケジュール化する。	授業評価シートを使った実践を行った。	B	①-3	確かな学力育成に結びつけられたかどうか、検証ができにくく、指標の決め方に無理がある。	B	取組指標の見直しを行う。 書き取り会・計算会の7、12、3月3回の平均80点以上が80%以上達成するという指標にする。
			漢字・計算の力を徹底して育てる。	学年到達目標の80%達成を目指す。	児童アンケート87%、職員83%	B	児一上2 職一3	客観的に評価できるよう、点数の把握も必要である。学力の向上を目に見えるようなものにするには、全校体制をとっていく必要がある。		
	授業の追求	分かる授業をめざす。	TTや少人数指導を生かす。	指導時数85%達成を目指す。	実施率は86.7%（少人数授業中間報告）	A	①-5	支援の必要な児童に十分配慮して、少人数授業が生まれ、実践している。	B	集計、分析を速やかに行う。
			評価シートで授業の評価を行う。	児童の評価で肯定的評価70%超を目指す。	評価シートによる児童の評価ができていない。指標の決め方に一考必要。	D	①-6	厳しい評価がなされている。指標の決め方に無理があるように感じる。		
	ふるさと教育	地域の「ひと・もの・こと」を積極的に活用した教育活動を工夫する。	地域のひと・もの・ことを積極的に生かした授業を展開する。	ふるさと教育をスケジュール化する。	全体計画、年間計画が作成できている。	A	①-7	全体計画、年間計画にもとづいて計画的にふるさと教育がなされている。活動の様子は学校だより等でよく分かる。	A	

評価項目	領域	中間目標	短期目標	成果・取組指標	自己評価		資料番号	外部評価		改善策	
					達成状況	評価		考察	評価		
② 生徒指導	心の教育	心の教育の充実を図り、心が豊かで思いやりのある子の育成に努める。	読書活動の推進を図る。	読書教育推進をスケジュール化する。	全体計画はあるが、スケジュール化ができていない。	D	②-1	学年ごとの読書指導計画を立てて、読書教育の充実を図ってほしい。読書指導はすべての教育の根底をなすので力を入れてほしい。	C	学年別読書指導計画を立てて、それに従って実践する。	
			道徳教育の充実を図る。	道徳の授業時間を100%実施する。	100%達成できている	A	②-2	引き続き道徳教育の充実を図ってほしい。	A	現状どおり実施する。	
			互いに思いやりの心育成につとめる。	たてわり班活動を年3回行う。	七夕飾り、年賀状作り、遊び等3回以上の活動実施。教員評価85%	A	②-3	異年齢の児童が協力しあって活動することは、思いやりの心を育てる上で有効なので、継続して欲しい。けんかやいじめの原因をさぐるような項目を入れた方がよい。	A	児童会の活動と連携して実施する。	
			進んであいさつができるよう指導の充実を図る。	教師・児童の評価で肯定的評価70%超を目指す。	児童アンケート83%、教員アンケート31%。差が大きい。	C	児上7職-10	顔見知りの場合はできるが、習慣づけができていない。家庭への啓発も望まれる。	C	学期に1回程度の全校をあげての取り組みで「あいさつ」を入れる。登下校の際の指導も実施する。	
	教職員の協力体制づくり	生徒指導の整備と拡充に努める。	生徒指導職員会の充実を図る。	生徒指導職員会を月1回実施する。	毎月実施できた。	A	②-5	継続的実施が望まれる。	A	内容の検討をして実施する。	
	教育相談	共感的な児童理解に基づく生徒指導の充実を目指す。	教育相談体制の整備と充実を目指す。	教育相談をスケジュール化する。	スケジュール化し、各学期とも実践した。	A	②-6	児童の悩みやいじめの早期発見にもつながるので、今後も実施してほしい。	A	アンケートを実施して、現在の方向で実施する。	
				教師・児童の評価で肯定的評価70%超を目指す。	児童アンケート72%、教員アンケート100%	B	児下4教12	児童はもっと先生に話を聞いてほしいという思いをもっており、それに答えていく努力はすべきである。児童アンケートの聞き方は考える余地あり。			
	人権・同和教育	人権・同和教育を計画的・組織的に行う。	児童への取組を行う。	教職員研修の充実を図る。	研修を計画に沿って100%実施する。	計画どおり実施できた。	A	②-8	引き続き、研修に努めてほしい。	A	内容の一層の充実を図る。
				教師・児童の評価で肯定的評価70%超を目指す。	1・2学期学校評価67% 児童の評価は学年末に行う予定。	B	職-13	学年に応じた取り組みを計画的に行うべき。アンケートの方法も工夫したい。人権尊重の教育により思いやりの心が育ちいじめばどなくなると思うので一層の充実を望む。		短期目標や成果取組指標の見直しを行う。	
				保護者への啓発を行う。	保護者研修を実施し参加50%超を目指す。	PTA研修会に保護者57名参加(全体の54%)	A	②-10	保護者へ参加してもらうように、さらに働きかける必要がある。参加率アップを考えてほしい。		PTA役員、文教部との連携を図り、より参加しやすいように日時や内容の設定を図る。

評価項目	領域	中間目標	短期目標	成果・取組指標	自己評価		資料番号	外部評価		改善策	
					達成状況	評価		考察	評価		
④安全管理	③進路指導	キャリア教育	勤労観・就業観を身につけさせるなど、主体的に進路選択する能力・態度を育成する。	キャリア教育について認識を深め、全校体制で取組む方向性を明確にする。	キャリア教育をスケジュール化する。	キャリア教育が指導の中に位置づけられなかった。	D	③-1	キャリア教育の指導計画を作成してほしい。	D	キャリア教育の全体計画の作成とそれに基づいた実践を行う。
	学校安全管理 学校防災 安全対応能力の向上	安全で安心な学校をめざし、管理体制の確立と安全意識の指導を行う。	安全点検を行い、結果を安全管理に生かす。	月1回校舎内外の、学期1回通学路の安全点検を実施する。	・月1回の校舎内外の点検は行った。	A	④-2	継続的実施が望まれる。点検については、児童や地域の人やPTAの参加を考えてみることも必要。古い遊具がかなりあるが安全点検をしっかりと使田させて欲しい。	A	児童や保護者、地域の人による安全点検を検討してみる。	
				危険箇所について共通理解し、補習・修理計画を立てる。	・安全点検の結果をまとめて、見やすい形式にした。共通理解までには至らなかった。	B	④-3				補修や修理計画について、職員が共通理解をもつことが必要。
				非常災害時における保護者との連絡対策を明確にする。	保護者との連絡体制を整える。	保護者の連絡網はできている。	B	④-4	災害時のなどのために、確実な連絡網が必要。連絡網がきちんと機能するかどうか試してみるとよい。	B	連絡網が機能するか確認する。
				保護者アンケートで、肯定的評価70%超を目指す。	保護者アンケート70~90%を目指す。	B	保-12				
	防災・避難訓練を行う。	学校防災計画を作成する。	・防災計画はできている。	A	④-6	防災計画を常に見直し、共通理解してほしい。	A				
	学校安全管理 学校防災 安全対応能力の向上	安全で安心な学校をめざし、管理体制の確立と安全意識の指導を行う。	防災・避難訓練を行う。	避難訓練を学期1回実施する。	避難訓練は学期1回できた。	A	④-7	訓練は役に立つので、まじめな態度でさせてほしい。いろいろなケースを想定した避難訓練が必要。	B	年1回は専門家を招いて訓練を行い、指導を受けるようにする。	
				教師・児童アンケートで肯定的評価70%超を目指す。	教職員アンケート100%肯定的児童アンケートが実施していない	C	④-8 教-19				意識づけができたかどうかの児童アンケートをしてほしい。
		安全意識を高め、危機回避能力、危機対応能力の向上を目指す。	不審者対応訓練を実施する。	年1回防犯教室及び不審者対応訓練を実施する。	2月実施の予定	D	④-9	計画的に実施してほしい。地域を含めての防犯教室も考えてみてはどうか。	D	児童対象か教員対象かねらいをしばって実施する。	
				児童・教師アンケートで肯定的評価70%を目指す。		D	④-10				

評価項目	領域	中間目標	短期目標	成果・取組指標	自己評価		資料番号	外部評価		改善策		
					達成状況	評価		考察	評価			
⑤ 保健管理	学校保健 学校環境衛生	学校保健計画に基づいて、子どもの自己健康管理能力の向上を図る。	日常の健康観察や疾病予防等の指導を通して、子どもの自己管理能力の向上を目指す。	学校保健計画に基づいた保健指導を100%実施する。	1年生では100%だったが、他学年を平均すると70%強であった。	B	⑤-1	計画の100%をめざして実施してほしい。	B	学校保健計画の見直しを行う。		
				児童のアンケートで肯定的評価70%超をめざす。	児童アンケートで81%であった。	B	⑤-2				学年に応じた自己管理能力を身につけているかどうかを問うアンケートは難しい点がある。	
				健康診断を効果的に実施する。	健康診断の事前指導・事後指導を実施する。	事前指導で健康診断のやり方や目的を指導した。	B				⑤-3	引き続き意識化できるような事前指導をしてほしい。
					治療勧告をもとに治療済み80%を目指す。	全校で49.3%の治療済みだった。治療を呼びかける手だてが必要。	D				⑤-4	繰り返して治療勧告をしてほしい。保護者への教育と子どもへの自己管理能力を育てることが必要である。
	心のケア 健康相談	心のケアや健康相談活動を充実する。	子どもたちの心や体の健康相談ニーズに応える。	心と体の相談窓口を開く。	相談窓口について知らせ、開いた。	A	⑤-5	さらに児童が周知するように努め、児童のニーズに応えられるようにしてほしい。	A	児童・職員へ周知してもらうために呼びかける。		
	学校給食	学校給食の衛生管理に万全を期す。	学校給食の衛生管理をマニュアルに基づき厳正に行う。	衛生管理マニュアルに沿って実施する。	マニュアルに沿って毎日、点検記録しているが、調理場が古いため作業動線の交差などやむをえない。	D	⑤-6	老朽化のため、やむをえない部分もあるが、衛生管理に努めてほしい。	D	今までどおり、厳正な点検を行う。		
				衛生管理トラブル「ゼロ」を目指す。	ていねいに洗って見ているが、大根葉についていた松葉が入っていた。パンには前の焼き生地が混ざっていたことがある。	D	⑤-7				地産地消が進むと、トラブルが起こりやすくなるのでは。厳しい目でみてもらっていることはよい。	念入りな作業に努める。
⑥ 特別支援教育	校内支援体制 個別支援計画	校内体制を整備し個別の教育ニーズに対応した指導・支援を充実させる。	支援体制の充実を図る。	支援委員会をスケジュール化する。	定期的な指導ができなかった。就学指導に向けて2回、にこにこサポートに関して1回実施。	D	⑥-1	スケジュール化を図ってほしい。専門家に入ってもらって実施してはどうか。早期発見に努めることが大事。	C	各学期に1回実施する。		
	校内支援体制 個別支援計画	校内体制を整備し個別の教育ニーズに対応した指導・支援を充実させる。	支援体制の充実を図る。	個別の指導・支援計画を作成する。	作成した。	A	⑥-2	個別指導計画に沿って実践され、その反省のもとにより充実した計画になることを望む。	A	各学期ごとに見直しを行う。		
	交流及び共同学習	交流及び共同学習の実施を促進する。	交流及び共同学習の時間・場の確保を行う。	市の合同学習に参加する。	参加した。	A	⑥-3	心の教育を進めていく中でも、交流や合同学習を進めてほしい。	A	来年度も継続実施する。ふるさと交流については、他学年との交流を行うなど幅を広げたい。		
				ふるさと交流の充実を目指す。	3年生を中心に計画通り実施できた。	A	⑥-4					

評価項目	領域	中間目標	短期目標	成果・取組指標	自己評価		資料番号	外部評価		改善策
					達成状況	評価		考察	評価	
⑦ 組織運営	学校運営 校務分掌	適切な校務分掌により組織的運営の円滑化と効率化を図る。	校務分掌の各組織ごとの目標を設定し、具体的な取組を推進する。	教職員の自己評価で肯定的評価70%超を目指す。	・教職員アンケートで58%・3学期から定期的に分掌部会を設定した。	C	⑦-1	見えにくい部分で、評価しにくい。組織の活性化を常にめざしてほしい。	C	分掌会を月1回は行い、具体的な取り組みの推進状況を把握する。
	服務規律	教職員の厳正な服務規律の確保に努める。	服務規律の確保に関する研修を徹底する。	研修を実施する。	・研修を実施。	A	⑦-2	服務規律を守って勤務されている。	A	さらに意識化が図れるように研修の方法を工夫する。
				教職員の自己評価で肯定的評価100%を目指す。	・服務規律確保の評価100%達成を目指す。	A	教一24			
	学校経理	学校予算の執行を厳正に行う。	予算執行状況を分かりやすいものにする。	教職員の自己評価で肯定的評価70%超を目指す。	・教職員評価70%超	B	教一25	予算執行状況について職員が共通理解できるように、さらに努めてほしい。	B	予算執行状況について学期に1回知らせよう努める。
	情報管理	個人情報の確保・管理を徹底する。	マニュアルに基づいた研修を実施する。	個人情報漏洩「ゼロ」を目指す。	・教職員アンケートで92% 評価が難しい	B	教一26	評価しにくい項目である。完全に100%達成することは、難しい問題である。	B	研修内容や研修方法の工夫を行い、個人情報への正しい理解を図り、漏洩ゼロへの意欲をもつようにする。
⑧ 校内研修	校内研修	教師力を高める。	内容の工夫を行いながら積極的に研修を行う。	月1回の研修を行う。	毎月研究職員会を行い、研究を深める共通理解ができた。	A	⑧-1	児童のために引き続き、教師力を確かめるべく学ぶ姿勢を持ち続けてほしい。	A	内容について吟味し、年間の予定を立てて臨みたい。
				教職員の自己評価で肯定的な評価70%超を目指す。	教職員評価92%(教職員評価27)	A	⑧-2			
	校内研究	授業力・学級経営能力を高める。	組織的・計画的に研修を行う。	全員が研究授業を行う。	全員が互いに授業を見合って高め合った。	A	⑧-3	引き続き、実践研究に努めてほしい。	A	来年度へ向けて子ども達につけたい力をさらに考えていきたい。
				研究のまとめを作成する。	1月16日に研究のまとめを作成。教育事務所に提出中。	A	⑧-4			

評価項目	領域	中間目標	短期目標	成果・取組指標	自己評価		資料番号	外部評価		改善策	
					達成状況	評価		考察	評価		
⑨ 連携	学校運営への参画及び協力	保護者や地域住民との連帯を強化し、学校運営に対する参画や協力を得る。	PTA役員会・東っ子を語る会の参加者から学校運営に関する意見・提言を得る。	PTA役員会及び学期1回の東っ子を語る会を開催する。	・PTA役員会・学期1回東っ子を語る会を開催。東っ子を語る会の概要のおたより発行。	A	⑨-1	A	東っ子を語る会で詳しい説明があり、学校のことがよく分かる。他の先生達とも意見交換をする場を設けてほしい。	PTA役員会や東っ子を語る会の時間や参加者について検討する。	
			保護者や地域住民の意見や要望を学校運営に生かす。	保護者・地域住民に対するアンケートを実施する。	・学期ごとにアンケート実施。職員と東っ子を語る会で公表。	A	⑨-2		大変な作業をしておられる。生かしてほしい。	できるだけ客観的な結果がでるようにアンケートの項目について工夫する。	
			PTAや地域団体との結びつきを強化する。	保護者・地域の自己評価で肯定的評価70%超を目指す。	・「学校と地域との交流を積極的に行う」アンケート肯定的評価70%超・つながりがやや少ないという意見有り。	A	保-19 地-8		地域へ出かけて学習をしていることを学校だより等で知らせてもらっているし、校長先生が地域の行事によく参加しておられるので、結びつきはかなりできてい	教職員と地域との連携について手立てを工夫する。	
	情報提供	学校教育の内容や計画を広く情報発信する。	学校だより・学級だよりを発行する。	学校だよりを毎月発行する。学級だよりは月2回以上発行する。	・予定どおり学校だより・学級だより発行	A	⑨-4	A	学校だより等で情報提供をしてもらい、地域に開かれた学校として地域住民が親しみを感じるようになった。	引き続き学校だよりや学級だよりを発行する。	
			保護者や地域への案内の工夫をする。	保護者・地域住民アンケートで肯定的評価90%超を目指す。	・評価結果が肯定的評価70~90%。・学習発表会の案内は90%超。	B	保-23 地-11		ポスターや学校だより等で行事の案内はよく分かっている。行く気持ちはないと見えないのではなかろうか。老人会への案内も出してはどうか。	さらに案内の工夫をする。	
	学校間の連携	異種学校間の連帯を図り、児童生徒の人間力の向上を目指す。	学校間の円滑な接続のために保小が連携する。	保小連絡を年2回実施する。	保小連絡会を年2回実施	A	⑨-6	B	少子化の時代、異年齢の交流はとてよきことなので、続けてほしい。保育所の先生が授業を見たいという気持ちをもってもらえるので、実施してほしい。	異種学校との交流について年間計画を立てて実施する。	
			学校間の円滑な接続のために小中が連携する。	小中連絡会を年2回実施する。	・小中連絡会2回実施もつと機会をもつべき。	B	⑨-7		9年間というスパンで子どもを育てていくつもりで、計画的に連絡会や交流を実施してほしい。	中学校とは合同研修や交換授業の取り組みを行う。	
			異種学校との交流と連携を行う。	特殊学校・保・中の児童・幼児・生徒との交流を行う。	・保・中との交流が少ない。年間計画を立てるべき。	B	⑨-8		たてのつながりは大事である。幅広い交流を今後もつづけてほしい。		
	⑩ 施設・設備	安全維持管理	施設・設備の安全維持管理に努める。	校舎や校庭の点検や補修に努め、安全維持管理を行う。	教職員・児童アンケートで肯定的評価70%超を目指す。	・アンケート結果は70%超。 ・遊具の補修が必要。	B	児-下6 教-32	A	引き続き安全維持管理に努めてほしい。遊具をPTAで手作りされてはどうか。	引き続き安全管理に努める。
		学習・生活環境	教育環境の充実を目指す。	学習にふさわしい環境づくりのために整理整頓に努める。	児童・教師アンケートで肯定的評価70%超を目指す。	・児童アンケートの「学校はきれい」の肯定が低い。(82⇒45%) ・環境整備に積極的に児童に関わらせるべき。	D	児-下7 教-34		児童アンケートの結果が2学期下がったのはどういう理由だろうか。聞き方にも問題があったのでは。環境整備に児童も関わらせることは大事。	アンケート項目の見直しを行う。環境美化活動に児童に積極的にかかわらせるようにする。

